

すさきの自然 再発見！！



須崎市では、「かわうそそのまちづくり事業」の一環として、平成18年度より、年4回「すさき野外博物館」を開催しています。

これは、身近な自然や生きものたちを訪ね、実際に見て触れることで、自然環境に興味を持ち、環境問題をより身近な問題として、みんな考えていくことというものです。

第13回すさき野外博物館の開催

しんじょう

2009. 7. 1
すさき・かわうそクラブ会報
—No. 11—
発行：すさき・かわうそクラブ事務局



講師の松田先生から、干潟にくらす生きものについてお話がありました。

第13回目は、5月23日（土）須崎市を流れる桜川の河口にひろがる干潟で、「干潟の生きもの」をテーマに開催しました。干潟での観察会は、毎年開催しており、今回で4回目となります。講師には、長年、この干潟を調査してこられた高知大学理学部教授でNPO法人四国自然史科学研究所センター理事長の町田吉彦先生をお迎えしました。

初夏の陽気の中、小さな子どもから大人の方まで、須崎市内外から40人を超える参加者が集まり、干潟での観察会を楽しみました。

桜川の河口にひろがる干潟は、面積は狭いものの、高知県内でも数少ない干潟のひとつです。この干潟には、高知県希少野生動植物保護条例により、特に希少とされるシオマネキ（スナガニ科）やトビハゼ（ハゼ科）がくらすしており、他にも、貝やカニなどさまざまな生きものがいます。

●干潟にすむ生き物

町田先生によると、絶滅危惧種等に指定されるものも含め、約10種類のカニが確認されているそうです。そして、今後この環境を大切にしていかなければならない、という話がありました。

干潟へ移動すると、この日も、たくさんのカニが姿を現し、子どもたちは、思い思いにそれを捕まえては、町田先生にその種類を聞いたり、お父さんやお母さんに嬉しそうに見せたりしていました。

はさみを、まるで万歳をするように、しきりに動かし、その様子はかわいらしくしばし見入ってしまいました。このウェービングといわれる行動は、雄のみが行うため、雌への求愛行動ではないかと言われているそうです。

ただ、なかなかシオマネキ、トビハゼの姿は見られませんでした・・・

●ついに出現！

観察会も終わろうとするころ、ついに今年も「シオマネキ」が現れました。

体を隠してしまいそうなほどの大きなはさみを右手に持ち、それを折り曲げた姿は、まるで恥ずかしそうに顔を隠しているように見えました。

実際、騒がしいと巣穴に隠れてしまうそうです。本来、



「シオマネキ」の様子
このシオマネキは右利きです。

捕獲することの禁止されている貴重な生きものに、参加者全員が群れるように集まり観察をしました。

●生きものと共存のために

今回の観察会では、「シオマネキ」のほかに「カワスナガニ」という全国的に見ると珍しいカニも観察されました。

「この干潟にこんなに生きものがいっぱいおるがやね」などという声も聞かれ、私たちの住む須崎市は、思っている以上に自然豊かな場所であることを、再確認することができました。

最後に、町田先生は、この自然環境を残していくために「水を汚さないこと」「人間が必要以上に手を加えないこと」が重要だと、おっしゃっていました。

狭い干潟においても、場所を変えると暮らす生きものが違います。生きものは、自らが住みかを探し、くらすしているのです。本来の自然を破壊することなく、見守ることが人と自然とが共存していくために大切なことなのです。



「シオマネキ」は干潟の草の生えた場所に暮らしています。むやみに入るとは避けましょう。

●観察するときのお願い
 本事業は、市内に残っている貴重な自然や、そこにくらす生きものたちについて、一人でも多くの方に知っていただき、現存する自然の保護・保全、あるいは失われた自然の再生などについて、みんなで考えようと専門家の指導のもとで行っています。

したがって、普段観察する際には、むやみに干潟に入ることなく、堤防の上から観察するようお願いいたします。

看板には高知県レッドデータブックに掲載され絶滅が心配されているシオマネキやトビハゼ、フトナタリなどについて、その特徴や特性を写真とともに詳しく解説しており、干潟に入ることなく、ここにくらす生きものについて知ることが出来ます。

また、「なぜ、この場所が貴重な生き物が見られるのか」など、この干潟の環境についても解説しています。この看板が自然環境や環境問題に目を向けるきっかけになることを願っています。



観察会の場所である桜川河口、押岡の「源蔵橋」に、この干潟にくらす生きものを分かりやすく解説した看板を設置しています。

干潟の生きもの解説看板

今後の予定(21年度)

平成21年度すさき野外博物館は、下記の内容を予定しています。詳しい内容や日時などは、広報や公式ホームページ、公民館・学校などに配布するチラシでお知らせします。みなさん、ぜひご参加ください。

- 第14回 灯りに集まる虫たち(7月25日(土))
- 第15回 つばめの罫(ねぐら)入り(8月8日(土))
- 第16回 カンムリカイツブリの湾(12月19日(土))

※ 今年度は、例年4回の観察会に加え、さらに2回の開催が決定しました。

- 第17回 新莊川に渡りくる冬鳥(カモなど)(平成22年1月16日(土))
- 第18回 新莊川における冬の水生昆虫観察会(平成22年2月27日(土))



韓国からお客さんがきました。

昨年秋、韓国のテレビ局MBCの記者が須崎市に取材にやってきました。

韓国釜山(フサン)の北西にある大邱(テグ)という都市では、現在カワウソの生息が確認されています。しかし、人口300万人を超える地域での河川環境は悪化しており、カワウソの減少が危惧されています。それでも、行政は河川環境の改善に動かないそうです。そこで、カワウソのいる環境を守るよう行政に働きかけるために日本やドイツの現状を取材しており、二ホンカワウソが日本で最後に確認された新莊川を訪れることになったとのことでした。

その後、新莊川においてカワウソが生息していた当時のことをよく知る地元の方にお話を聞き、須崎市の自然について語りました。

取材陣の方は、取材中に須崎で飛んでいるタカやミサゴを見て、「韓国ではこんなに大きな鳥が町の中で飛んでいるのを見たことがない」などと驚いていました。

大邱(テグ)の環境保全のために少しでも参考になればいいなと思うと同時に、須崎市も引き続き自然環境を考えていかなければならないと感じました。

取材にきたテレビ局の人はまず須崎市役所を訪れました。

市長室で市長を交え、須



第51回須崎まつり

須崎市の夏の一大イベント「第51回須崎まつり」が、7月31日(金)～8月2日(日)の三日間開催されます。

主なイベント

7月31日(金)

- はし拳かこかきレース
- 浴衣コンテスト

8月1日(土)

- 朝日ファミリー劇場「桃太郎」
- 花火大会

8月2日(日)

- 須崎市ドラゴンカヌー大会
- ヨット体験航海
- サマーフェスティバル



須崎名物：2尺玉

須崎名物 2尺玉

須崎湾を舞台に、豪快な2尺玉の花火が打ち上げられます。高知県内では、唯一の「2尺玉」。今年は、2発を予定しています。その他大スターマインなど約2000発の花火が須崎湾上空を彩ります。また、湾に臨む富士ヶ浜は、多くの屋台で賑わいます。

はし拳かこかきレース

須崎まつりのオープニングをかざる恒例行事。

須崎市西町にあるフジ前をスタートし、各チーム自慢の駕籠(かこ)をかつきながら、仮装をした6～12名のメンバーで、市街地をとり、ゴールの新町駐車場を目指します。スタートからゴールまでに、10ヶ所の関所が設けられており、各関所で「はし拳」を打ち、勝敗を競うレースで

す。

はし拳とは、宴席の座興として行われる土佐の伝統遊戯です。2人が相対して3本ずつの箸を前面に突き出し、箸の合計本数(自分のものと相手のもの)を威勢よくリズムカルな調子で当てる競技です。勝負に負けた方は、盃に満たした酒を飲むのが風習となっています。

須崎まつりのこのレースでは、毎年、各チームの独創的な駕籠・仮装が会場を盛り上げます。また、日本酒を「くいつ」と豪快に呑む姿も見物です。



(写真：商工会議所)

ゴール会場では、ビアガーデンなどイベントが開催されています。

ドラゴンカヌー大会

須崎まつりの最終日をかざる「ドラゴンカヌー大会」は今年で11回目を迎えます。古くから海と深い関わりをもつ須崎市。そんな須崎市にある須崎工業高校には造船科があり、その生徒さんと先生が、「元気な須崎市になるために、自分たちの技術を役立てたい」と、放課後や休日を利用してドラゴンカヌーを建造し、市に寄付してくださいました。そして、これをきっかけに、この大会が開催されるようになりました。

また、平成17年には、兵庫県相生市と「ドラゴンボート交流都市」の締結をするなど、この大会が新たな交流を生みました。

穏やかな浦ノ内湾に直線300メートルの特設コースを設け、各チームがカヌーを漕ぎ、速さを競います。この大会は、参加するチームの特色が豊かで、仲良しが集まればすぐ参加できる手軽さと、フレンドリーさが特徴です。

ドラゴンカヌーの部(一般)では、船頭に竜の頭を持った全長20メートル、幅1.4メートルのドラゴンカヌーを24

人のこぎ手と、艇長・かじ係・ドラ係の3名の計27名で操ります。

一方、かわうそカヌーの部(女性)では、船頭に「かわうそ」が乗ったかわうそ艇が登場。全長10.5メートル、幅1.35メートルのかわうそカヌーを16人のこぎ手と、艇長・かじ係・ドラ係の3名の計19名で操ります。

年々、参加チーム数は増えており、昨年の第10回記念大会には、66チームが出場。ますます盛り上がりを見せています。

須崎の夏のイベントとして、定着したこの大会。今年は、どんなチームが出場し、どのチームが優勝するのでしょうか？

●問い合わせ

ドラゴンカヌー大会実行委員会(生涯学習課内)

0889・42・8591





サマーフェスティバル

最終日、桐間地区において、屋台などを設け、キャラクターショーなどステージイベント

トを開催。小さい子どもさんも楽しめるイベントです。『ニッサン モコ』をはじめ豪華景品があたる「花の種抽選会」も行われます。ステージスケジュールや「花の種抽選会」の詳細、そ

の他、須崎まつりについては、下記の須崎商工会議所HPに掲載しておりますのでご覧ください。



※「須崎まつり抽選券付花の種」を販売いたします。収益は、須崎まつりの実行資金として活用させていただきますので、ご協力をお願いします。

須崎市携帯サイト



<http://g.city.susaki.kochi.jp/>
「須崎ガイド」には、須崎名物“鍋焼きらーめん”などの観光情報を掲載しています。

須崎まつりの詳細・問い合わせ
須崎商工会議所
〒785-0012
高知県須崎市西糺町4-18
tel : 0889-42-2575
fax : 0889-43-2696
<http://www.cciweb.or.jp/susaki/>

「すさき・かわうそクラブ 会員募集中」



「すさき・かわうそクラブ」では、かわうそのまちづくりを応援して下さる方を募集しています。詳しくは、事務局までお問合せください。

また、かわうそのまちづくりに関するご意見・ご質問などもお待ちしております。

(事務局) 須崎市企画課 〒785-8601 高知県須崎市山手町1-7
TEL 0889-42-5691 FAX 0889-42-7320
E-mail kikaku2@city.susaki.kochi.jp